

# 区制施行90周年冠事業 高円寺地域区民センター協議会報



# ふ、おしあ、い

特別号

## 「おじゃま連」 はじまりのものがたり



おじゃまくん

今年、区制施行90周年を記念して「すぎなみ5ストーリーズ」の1つに「高円寺阿波おどり」が取り上げられました。高円寺地域区民センター協議会では、高円寺阿波おどりを地域の人とともに楽しみ盛り上げる活動を行っています。特別号では、その活動をご紹介します。

(「すぎなみ5ストーリーズ」について、詳しくは杉並区のホームページをご覧ください。)

高円寺地域区民センター協議会は、毎年8月の高円寺阿波おどり開催日にあわせて「阿波おどり体験講座」を実施しています。参加者にとって1日限りの「おじゃま連」として、演舞場で習いたての踊りを披露できる貴重な機会になっています。高円寺阿波おどりはコロナ禍で今年も屋外での演舞が中止となり、「おじゃま連」も出番がありませんでした。再び演舞場の賑わいが戻る日が待たれます。



## 「阿波おどり体験講座とおじゃま連」

高円寺阿波おどりは路上での演舞だけでなく、「座・高円寺」と「セッション杉並」の舞台でも鑑賞できるようになりました。それでも地域の住民にとって「阿波おどり」は、JR高円寺駅周辺から青梅街道北側までの限られた区域のイベントと捉えられることが多く、高円寺地域区民センター協議会(以下、協議会と略します)との関わりもありませんでした。

「おじゃま連」は協議会で企画した講座から始まります。2014年(平成26年)当時の協議会事務局長・諸角純子氏が、東京高円寺阿波おどり振興協会(以下、振興協会と略します)の冨澤事務局長の協力を得て、「阿波おどり体験講座」を企画し、協議会全体で取り組む事業となりました。企画が進む中で、講座当日に「おじゃま連」として飛び入り参加が実現したのも画期的なことでした。かつて飛び入り参加が許されていた時代もあったそうですが、事故や酔った観客によるトラブルなど、健全な祭りを安全に行うのに支障が出たために、飛び入り参加は禁止となり現在に至っています。

# 「おじゃま連」について、 諸角さんに話を聞きました。

**Q** 「阿波おどり体験講座」を始めたきっかけはありますか？

**A** 協議会の協働事業を展開する上で、4大祭りとのコラボを模索していた時に、振興協会の富澤さんとたまたま話す機会がありました。すでに祭りとしての事業が確立している阿波おどりに、協議会がどういった関わり方ができるのか、またセッションのある青梅街道の南側に祭りの賑わいをどう広げるかなど、率直に話し合う中から「体験講座をやったら」という流れになったと記憶しています。

**Q** 飛び入り参加が許された経緯は？

**A** せっかく覚えた踊りを披露する場があったらと考えていたところ、富澤さんから「連として講座当日に一つの演舞場のみの飛び入り参加をしてみてもどうか」と提案されました。振興協会から講師の派遣や鳴り物(お囃子)の手配など、多くのサポートを受けて「おじゃま連」が踊りを披露する機会を作ることができました。

諸角純子さん(右から3人目)



体験講座での練習風景

**Q** 準備は大変でしたか？

**A** 講座当日のセッションホールでは、もともと阿波おどりの演舞が振興協会によって行われていましたが、中庭に出店を出して、踊り手さんと触れ合える場を作るなどセッション全体で阿波おどりの雰囲気を楽しめるようにしました。そのため準備も大がかりなものになり、協議会委員が協力して取り組んでくれました。

**Q** 参加者の様子はいかがでしたか？

**A** 踊りを覚えたら演舞場で踊れるということで、練習も気合十分でした。一つの演舞場だけのあつという間の「おじゃま連」でしたが、皆さんの表情が素晴らしく、「楽しかった」「気持ちよかった」との感想をいただきました。

**Q** 最後に、「おじゃま連」の名前の由来はなんですか？

**A** 連として参加するのに名前が必要ということで、みんなであれこれ考えました。他の連の方々は、年間通して練習して当日を迎えるのですが、その日に練習してその日限りの連ですから、皆さんのお邪魔にならないようにという気持ちで「ちょこっとおじゃまさせていただく」の意をこめて「おじゃま連」となりました。



食べるセッション(中庭の出店)

## COLUMN 「なぜ、高円寺で阿波おどり？」

高円寺阿波おどりは、今や全国的に有名な夏のイベントとなっています。はじめは昭和32年、現在のパル商店街の青年部が地域おこしで始めた「高円寺ばか踊り」。徳島の阿波おどりの囃し言葉「同じ阿呆なら踊らにゃ損々」の「阿呆」を「ばか」にしたそうですが、当時の写真を見ると、衣裳も踊りも本家阿波おどりととはまったくの別物でした。

その後、本場徳島の人から指導を受けたり、有志が徳島へ「阿波おどり留学」に行ったりしながら、現在のような大きなお祭りになりました。



第四回(昭和35年)



第九回(昭和40年)

詳しくは、東京高円寺阿波おどり振興協会ホームページを

